

平成 29 年度 第 3 回学校協議会

平成 29 年度府立野崎高等学校第 3 回学校協議会議事録

日時：平成 30 年 2 月 25 日（木）

15:20～16:50

於：本校図書室

司会：橋爪教頭

記録：村尾麻佑子

檜原 凌

永井 克典

【次第】

1. 校長挨拶
2. 事務局より
3. 協議・意見交換
4. 会長より
5. 事務局より

1. 校長挨拶

- ・高校希望調査における次年度の本校志願者について

(2月5日時点：221名 昨年度比18名増)

- ・平成30年度の学校運営協議会の設置について
- ・教育委員会からの通達について（校則の確認）

2. 事務局より

1. 資料について

2. 本年度学校評価、来年度学校経営計画について

ア. H29年度の学校経営計画及び学校評価について

- ・12月に実施した生徒向け学校教育自己診断で、「授業は分かりやすい」の肯定的評価が58.2%と数値が伸び悩むことが今後の課題である。

- ・12月までの遅刻件数が前年度同時期と比べて400回ほど多く、引き下げていく必要がある。
- ・12月末までの中退者数が昨年度同時期と比べて12名多い。
- ・部活動の加入率が32%と今後活性化していく必要がある。
- ・地域連携行事について、野崎高校からの発信数を上昇させる。

イ. 来年度学校経営計画について

- ・めざす学校像はH29年度のものとの変更はなし。
 - ・中期的目標は毎年設定。
1. 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり
 - (1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する
 - ・校内における教員相互の授業見学や公開授業等で教員の「授業力」を向上させる。
 - (2) 生徒一人ひとりの進路目標を実現する
 - ・生徒の社会的・職業的自立に向け、主体的に進路を切り拓く実践的な態度を育成する。
 2. すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり
 - (1) 生徒の規範意識や自律心の育成
 - (2) きめこまやかな教育相談・支援教育の体制を構築
 - ・H30年度もSSWと連携した取組みを継続的に行う。
 - (3) 人権教育や総合的な学習の時間の取組みを充実
 - (4) 行事等を通して、生徒の自尊感情や自立心の育成
 3. 地域としっかり連携して生徒を育てる学校づくり
 - (1) 従来からの各種地域行事に本校生徒・教員が積極的に参加
 - (2) 本校が中心となった地域行事の企画・実施・部活動の合同練習や交流試合等
 - (3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信

3. 平成 29 年度学校教育自己診断の結果、第 2 回授業アンケートの結果について

ア. 平成 29 年度、学校教育自己診断の結果について

1. 生徒アンケート：

- ・問 5 「校舎内は清掃が行き届いている」の数値が低い。
→ 他力本願でなく、自分たちで綺麗にしていくとの意識付けを。
- ・問 20 「ホームページやブログなどで学校の情報を見ている」の数値が 30%と低い。
→ 在学中に学校のホームページはあまり見ないからでは。
- ・問 6 「頭髪・服装指導は、適切である」問 7 「遅刻指導・授業遅刻指導は適切である」の数値が低い。
→ 生徒は指導を受けている側なので低くなるのは当然である。
- ・問 9 「コース選択や科目選択は分かりやすい」問 10 「自分の選択したコース（体育・総合・情報）に関心を持っている・満足している」の数値は高い。
→ コース選択に対しては一定の支持を得ているのでは。
- ・問 16 「体育大会や球技大会は楽しい」、問 17 「文化祭は楽しい」、問 18 「野外活動（遠足）は楽しい」の数値が高い。
→ 行事に対しては非常に高評価を得ており、生徒の満足度が高いと言える。

2. 保護者アンケート：

- ・問 6 の数値が生徒アンケートとは異なり数値が高い。
→ 生徒は遅刻指導・授業遅刻指導を受ける側なので数値は当然低くなるが、保護者の数値は高いので、保護者からは一定の理解を得ていることがわかる。
- ・ブログを閲覧する割合は生徒では低かったが、保護者の数値は 7.9%上がっており、保護者の学校への興味、関心度は高まっていると言える。

- ・保護者アンケートの回答数は昨年度よりも減少しているため、工夫をしながら回答数を上げ、学校に対する興味を持ってもらえるようにしていく必要がある。

イ. 第2回授業アンケートの結果に対する全般的考察

【1】学校全体について

H27年度の学校経営推進費によるICT機器や教育環境整備により、H27年度2回目のデータは大きく跳ね上がり、過去最高の数値を打ち出した。

→ しかし、H28年度1回目のデータでは生徒の前年度以上の授業への期待感や満足感、達成感を求めている姿勢の現れなのか大きく数値を下げた結果となった。

→ この結果を踏まえ、H28年度からは、生徒の実質的な学力向上に向けた授業構成のために、職員研修やJump Up! PTの取り組みを充実させたことにより、今年度の2回目の数値では、以前の最高値に肉薄するまでとなった。

【2】履修の形態

必修科目平均・教科内選択科目平均・選択科目平均全てにおいて第1回目より数値を上げている。特に必修科目平均の上げ幅が大きく、ICT機器活用や授業充実に取り組んだ成果であると考ええる。

【3】講座の形態

習熟度別授業の数値が非常に高くなっており、英語・数学両教科とも、担当者の計画的な授業改善と工夫に取り組んだ現れだと考える。また、TT授業は全ての項目において3年間で最高評価が出ており、それに加え通常授業でも各項目において過去最高及び高数値が出ている。

【4】授業の形態

実習形式（家庭・情報・芸術）が全項目において最高値が出てい

る。ICTの活用などにより、実習や作業がわかりやすくスムーズに進んだ結果ではないかと思われる。

【5】学年別

前年度は学年によってばらつきが出ていたが、今年度は学年進行に伴って評価が高くなっている。今年度の42期生については2回目の数値は1年生の全項目において過去最高値を更新した。この成果をもとに、43期生においても中学校とは違った授業展開と教員の関わりにより信頼関係を築き、今年度以上の結果が出るようにしたい。

【6】教科別

芸術と家庭科において過去最高評価となった。また他教科に関しても今年度1回目よりも高数値を出している教科が多い。特に生徒意識の満足度・達成感が非常に高くなっており、生徒の授業への意識の高まりが感じ取れる。

4. 本校の取組みについて

ア. 教務部より：H30年度使用教科書の報告

イ. 生徒指導部より：重点目標の総括について

(第2回学校協議会と異なる点についての説明)

①生徒会活動・部活動の充実

- ・クラブ予算の分配方法を変更し、クラブの活性化を図る。
- ・キャプテン会議を8回実施し、クラブ員の意識向上を促した。
- ・オープンスクール等において生徒会やクラブ員などが活躍する場を設けて、中学生へ野崎高校の紹介を行った。

②生徒指導案件への迅速で丁寧な対応

- ・ネットトラブルの割合が年々増加しているため、情報リテラシーについての授業や、外部講師を招聘しての講演会などを実施した。ま

た、スマホサミットでの取組みを全校生徒に報告することで、情報化社会でどのように生きていくか、スマートフォンやSNSの上手な使い方を提案できた。

- ・府立高校における頭髪指導をめぐる問題を受けて、生徒指導は生徒本人とその保護者の十分な理解を得た上で行われることを教員間で再確認した。また本校では頭髪指導だけではなく、校則・内規・指導方針の見直しを行っている。

③規範意識の向上

- ・身だしなみに関しては、大きな服装の乱れは見受けられない。一方で化粧やアクセサリー、スカートの丈など、今までは力を入れられていなかった部分にも少しずつ指導を入れていかななくてはならないと考えている。
- ・自転車交通マナーについては下校時の立ち当番などを実施し、できる限りの交通安全指導を続けている。1月からは放課後の校外巡回指導も毎日行っている。来年度も継続する予定である。

④遅刻数の減少

- ・昨年度に比べると、総数は微増している。しかし、授業日数の増加や総生徒数の増加など、さまざまな要因が考えられるので一概にマイナスな結果だとは断定していない。

ウ. 進路指導部より：40期生進路状況について

- ・進学率と就職率は、ともに例年と同程度である。
- ・前年度同時期と比較した場合、未定・その他の生徒が少々増加しているが、現在も希望進路実現に向けて活動している生徒がほとんどである。

→特定の進学先入学に向けて強い意志を持つ進学希望生徒が増加していることにより、未定・その他の生徒が増加している理由となっている。本校は金銭的な問題により進学が困難となる生徒が少なくな

い。例年であれば就職へ進路変更をする生徒も一定数いるが、今年度はそういった変更が少なく、彼らの進路変更がないためということも考えられる。

→今後も生徒一人ひとりが主体的に進路選択ができる力の育成に注力しつつ、希望の進路が実現していけるよう支援を継続していく。

エ. 人権教育推進委員会より：人権だより

・SHINGO★西成さんの人権講演会について。

→生徒のために、様々な熱い言葉を伝えていただいた。生徒の感想からも非常にいい経験であったことがわかる。

オ. 首席より：Jump Up! PT

・Jump Up! PT の学校運営上における位置づけ、構成メンバーについて。

・平成 29 年度の活動過程についての報告。

→各チームの紹介とそのチームの活動内容の報告と取組検証。

・成果と課題について。

成果：・各チームにおける活動により、学校運営の活性化。

・ミドルリーダーの学校運営への参画意識の高まり。

課題：・各チームの提言を実現するための組織運営。

・学校重点課題に関する組織的検討が必要。

カ. 首席より：広報 PT

・学校ブログの更新により中学生と中学生保護者への情報発信を随時行っており、そのブログの一部について説明。

(教員研修 / 部活動 / 修学旅行 / 学校・学年行事 など、特に校内外で生徒・教員が頑張っている姿を中心に発信している)

3. 協議・意見交換

1. 本校の頭髪指導に関する校則について

- ・地毛申請をどのような手順で行っているかについての説明。
- ・何が地毛でパーマなのかの判断基準を設定するのが難しい。化粧・ピアス等の基準を設定する方が簡単である。
- ・頭髪に関してはかなり厳しくやっても良いのではないかと。
→ 頭髪を遵守しない場合、保護者に連絡するなどの文言を手引き等に付け加えてもいいのではないかと。

2. 遅刻の原因は？

- ・始業前の遅刻数と2限目以降の遅刻数が同数である。
→ 単純に寝坊で遅刻という理由の生徒もいるが、コンビニの袋を持って遅刻してきたり、午後から登校して来る生徒もかなり多いので、遅刻に対する罪悪感が薄いと思われる。
- ・遅刻指導を厳しくしすぎるとあえて欠席する生徒が増えていく可能性がある、一概に指導の強化が遅刻の減少に繋がるとは言えない。
- ・ルールを教えている途中の高校生に対しては、厳しくしてもいい。
- ・仮にルールを厳しくして、それに対して生徒や保護者が反発してきたとしても、なぜ学校側がそのルールを設定しているのかを説明し、許容範囲とそうではない範囲の線引きはしっかりさせたい。

3. その他

- ・幼少期に経済的に厳しい家庭環境で育ち、様々な経験をされた SHINGO★西成さんの講演は大変好評であった。
→ 生徒の感想からもその様子が伺える
- ・H30年度の学校経営計画の中期的目標でも提示されたように、「生徒の学ぼうとする力を育成する」という観点から、社会を生きて行く上で、高等学校での勉強はベースになるはずなので、様々な工夫をして身につけさせていきたい。

4. 会長より

- 学校運営という点で、生徒数の上昇が至上命題である。
→ H30年度入学者がどうなるかはわからないが、生徒を集めるための手立てを工夫し、継続的に行っていく必要がある。
- 今の世の中では、知識がありふれているので、どのようにして知識や情報を取捨選択するかを身につけさせなければいけない。上記のように「学ぼうとする姿勢を育成する」という目標を設定することで、彼らのキャリア教育にもつなげていくことができる。
- 学校教育自己診断での保護者の回答数が少ないのが懸念点で、いかにして保護者の意識を学校側に向かせるかも検討していかなければならない。

5. 事務局より

- 本日のお礼と来年度以降のお願い。
- 大東キャンドルナイトなどの活動より、大阪府教育委員会から「こころの再生」府民運動@スクール表彰を受けた。
- 学習指導要領の改訂に伴い、新たなカリキュラム作成が必要である。次年度から校内で準備と検討を進めていきたい。